

東北大学関東良陵同窓会

春季総会のご案内

薫風の候、令和元年を迎え、会員各位には、益々ご清栄のことと大慶に存じ上げます。

さて、東北大学良陵同窓会関東連合会春季総会を下記により開催したいと存じますので、なにとぞ万障お繰り合わせのうえ、ご出席を賜りたくご案内申し上げます。

今回の総会では、特別講演を大野曜吉先生（昭和53年卒、前日本医科大学法医学教授）にお願い致しました。

テーマは、「再審事件鑑定を振り返る」（講演要旨後述）と題して、大野先生ご自身が体験されたトリカブト事件や松橋（まつばせ）事件などについて、貴重な体験に基づくご講演をして頂きます。

懇親会のアフターディナーコンサートは、セントモ・弦楽五重奏団 高橋明先生（昭和53年卒）による皆様によく知られた親しみやすい曲、G線上のアリア、見上げてごらん夜の星を、北国の春、翼をください、イエスタデイなどの曲を演奏して頂きます。

青葉に彩られた風薫る六月の季節にふさわしい充実した総会になるものと思っておりますので、奥様はじめご家族の皆様ともども、ご出席くださいますよう、皆々様のお越しを心からお待ち申し上げます。

東北大学良陵同窓会関東連合会

会長

押田茂實

総会プログラム

- 一、期 日 令和元年（2019年）六月十五日（土）
- 二、場 所 市ヶ谷私学会館アルカディア
電話03（3261・9921）
JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩二分
- 三、受付開始 午後四時より
- 四、総 会 午後四時三〇分より開会
開会の辞
会長挨拶
経過報告
各役員報告・その他
閉会の辞
- 五、特別講演 大野曜吉先生（昭和五十三年卒）
「再審事件鑑定を振り返る」
- 六、懇親会 午後六時より開会
アフターディナーコンサート
高橋明先生（昭和五十三年卒）
セントモ・弦楽五重奏団（詳細本紙四面）
- 七、会 費 会員 一〇〇〇〇円
ご家族 五〇〇〇円（一人）
- 八、出席申込み 同封の振替用紙に会費と共にお申込み下さい。
- 九、年会費 五〇〇〇円（令和元年分）
（会費納入のお願い 本総会会費及び前年総会に於いて改訂された年会費金五千円のご納入を四ページ記載要領にてお願いいたします。今年度から振込手数料は不要です）

春期総会特別講演抄録

再審事件鑑定を振り返る

大野曜吉 (昭和53卒)

日本医科大学名誉教授(法医学)

関東良陵会でなにかしやべれとの大先輩押田茂實会長のご命令なので、本年二月いっぱい定年退職した身で、幾分か余生を楽しもうという気になつて居るところだったが、こうして何をしゃべるかも決まらずに抄録だけを書き始めている。生まれは埼玉県浦和市(現さいたま市浦和区)、一九五四年一月に母が産婦人科を開設しているその自宅で出生したらしい。取り上げたのはやはり医師である母の姉であつたようだ。小学校高学年より健康体となり、その後は中学・高校(埼玉県立浦和)大学と大病なく過した。大学5年のころ法医学との出会いがあり、大学院進学。助手を3年して、一九八五年六月、押田助教授が日大教授に転出、同じくして琉球大学に転任となり、同年十一月助教授となつた。翌一九八六年には石垣島での出張解剖で、のちの「トリカブト事件」の



大野曜吉先生

被害者の解剖に遭遇することの詳細は出口で一冊千円で頒布している冊子を参照にされたい(と書いたら押田会長から怒られ、結局無償で提供するので完全に赤字)。沖縄では刺創の解剖例が多かつた。前任の助教授は哆開した創の長さ幅しか測つていなかつたのだが、創縁を接着して測定することを押田助教授(当時)から叩きこまれていたので、創の長さ幅から真の創長を導くプログラム(C言語を使用)を作つて英文論文にした。この頃だつたと思うが、刺創における押し下げ現象なるものがいわれていることを知つた。そんなことが起こるのだらうかと、当時から疑問に思つていた。これらが実は今回紹介する松橋事件の再鑑定へとつながっている。

琉球大学に五年間お世話になつた後、押田教授の主幸する日本大学に転任した。一部の法医学会の重鎮(某旧帝大)からは「なんで国立から私立に同じ助教授で移るんだ!」とのお叱りの葉書をいただいたが、別の重鎮(私大)からは「埼玉出身ならわかるよ」といつていただいた。日大では二週間一回教授会が開かれ、助教授の代表も参加する習わしだつた。着任早々その代表にさせられた。当時、光が丘病院(医師会などで地域病院として運営されていたが立ちゆかなくなつた)について、日大が分院として引き取るこゝとなつた。各医局から定員増なしに人員を送ることになつたので「近々の定員増が望まれる」との助教授会とし

ての意見を陳述した(怖いもの知らず)。教授会の後、微生物の小野教授(東北大卒)から「あれは正論である」とのお言葉をいただいた。私立大学の場合には、まず経営という問題があり、研究・教育労働条件などはえてして後まわしになりがちである。東北大学は「研究第一主義」といわれ、私学との大きな違いであり、私学から見ると「親方日の丸」で楽ですぬとなる。しかも、東北地方に強大なライバル校はない、などと考へているうちに、東北大の赤石名誉教授から呼び出された。

弘前大学に教授として行つてくれというのである。仙台で十三年、沖縄で五年、やつと十八年ぶりに故郷に帰つてきたのでこれは困つたと思つた。断わるためにはどこか別の大学を考へている、というしかない。日本医大も弘前大と同時に定年になることが分かつていたので、日本医大にアプライすることを考へている、と伝え、私の弘前行きを断念していただいた。のちに、弘前大の某基礎系教授が日本医大に転任してきて、大学の選択は単に国立優位というばかりではないと気が付いた。私の日本医大へのアプライもそれほど大きな間違いではなかつたというわけだ。日本医大には学内に候補者がおらず、学外者二名での選考となつた。某旧帝大助教授が過去の学生運動かなにかが影響して脱落、主任教授会での二名の投票となつた。14歳9で一番若い私が選出され一九九二年五月から赴任した。

学長は菊池吾郎先生で東北大医化学教授を一九八三年定年退職されて母校の学長をされていた。「大野君困つたよ、給料が日大より少なくなる。ついては赴任手当を出すことにした」こうなると、やはり国立の方が恵まれている。琉球大学では、一カ月に一度本土と往復出来る程度の「僻地手当」がついていた。弘前大でも寒冷地手当がつくかもしれない。しかも解剖施設の新設はおぼつかない。ともあれそのようにしてその後、二十六年十一月の日本医大での教授生活が始まることとなる。

一九九七年九月、殺人事件の再審請求を目指す弁護団から、開示された被害者の着衣の損傷の記録と解剖所見との比較検討を依頼され、熊本地検に赴いた。熊本県出身の講師と二人で約四時間かけて下着二枚と徳利セーターに見られた損傷(創)の記録を行った。このことが、今年三月の再審無罪確定(松橋事件)につながつた。本講演では、本件について時間の許すかぎり、紹介したい。

* 大野曜吉先生 略歴

- 昭和53年3月 東北大学医学部卒業
- 同57・4 同大学医学部法医学教室助手
- 同60・6 琉球大学助手法医学教室
- 同60・11 同大学助教授法医学教室
- 平成2年6月 日本大学医学部助教授
- 同4・5 日本医科大学教授
- (法医学教室主任)
- 同19・3 同大学定年退職
- 同19・4 日本医科大学名誉教授

関東連合若手会開催

岩瀬 光

(昭和59年卒)

本会幹事長

毎年恒例となった『関東長陵若手会』が平成三十一年三月九日、飯田橋駅にある居酒屋北海道で開催された。総会も含め、平成卒の人集めに苦労する中で、平成卒12人を含む、総勢24名で盛大に行うことができた。

和やかに集合した若手会の先生方



現役の教授や准教授も7名集まり、卒業したての研修医や大学院生に、研究や臨床の苦労や面白さを伝えることができて、若手会創設の意味のある会となった。

出席者は平成27年石田啓之、鈴木瑛梨、林高大、岩瀬遼、平成13年青木吉嗣、青木美砂子、平成9年平井弥夫、平成7年前田寿美子、平成5年櫻井淳、小椋真佐子、平成3年北田志郎、平成2年平野浩二、昭和63年植松史行、柳澤隆昭、昭和61年千田雅之、鈴木尚子、昭和60年矢内充、昭和59年岩瀬光、安田宏、金生由紀子、昭和51年飯野正光、昭和42年押田茂實、押田翠、昭和36年荒井他嘉司、の諸先生である。来年の再会を期してお開きとなった。(文責 岩瀬光)

女性医師部会

講演後の感想

落合博子 (平成3年卒)
独立行政法人国立病院機構
東京医療センター形成外科

去る2018年7月7日、関東長陵同窓会・女性医師部会で「意外と身近な形成外科」と題して講演をさせていただきました。私自身は、1994年から東京で仕事をしておりますが、東北大学時代の知人と連絡を取ることがなく、当然関東長陵同窓会とも縁がありませんでした。そんな中、201

8年3月に期せずして会長の飯野ゆき子先生からお電話をいただき、背中を押して頂いた気持ちで僣越ながら講演をお引き受けいたしました。

形成外科とは、「異常」となった部位の外貌や機能を治して社会復帰を助ける医学です。歴史は浅いですが、基本的な切開縫合やマイクロサージヤリーの技術を用いた軟部組織形成、先天性疾患の形成、頭蓋顎顔面形成の他、眼瞼周囲疾患やリンパ浮腫などを扱う領域は広く、実は気になる「身近な疾患を扱っている事を、写真を呈示しながら説明させていただきました。追加して、私のライフワークである森林医学の話題もご紹介しました。話題途中で、東京医療センターの形成外科医5名は全員女性でそのうち3名は小さい子供がいること、皆手術を含む診療に積極的に参加している事をお伝えしたところ、多くの方から嬉し

い反応をいただき、励まされる思いが致しました。

お伺いしたところでは、今回は飯野先生のお計らいで会場がパレスホテル東京になったそうで、華やかな空間で美味しいお食事をいただき、優雅なひと時を楽しむことができました。

参加された先生方は様々な分野の第一線で活躍されていて、次々と私の知らない世界の話が飛び出して、東北大学の底力を再認識致しました。また、同じ形成外科の仲間がいたり、後輩と再会できたり、近くに同窓生の先生が住んでいたりと、嬉しいこともたくさんありました。この度は貴重な機会をいただきましたことを本当に感謝しております。この場での出会いが今後の交流につながっていくことを楽しみに、今後も関東長陵同窓会のイベントに参加させていただきたいと思っております。

第二十二回 関東長陵同窓会

女性医師部会 定例部会

開催のご案内 部会長 飯野ゆき子 (昭和49年卒)

日時 令和元年(2019年) 七月六日(土)

午後五時三十分より (五時より受付開始)

場所 外国人記者クラブ

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-3丸の内二重橋ビル5階

電話 03 (3211) 3161 Fax 03 (3211) 3168

講演 「日本の臨床研究の現状」

東京大学医学部付属病院臨床研究支援センター 講師 坂中千恵先生 (昭62年卒)

会費 金一万円

アフターテイナー コンサート♪

演奏ノート

高橋 明

(昭和53年生)

この度演奏させていただく46年入学、53年卒業の高橋明と申します。私は大学卒業後初期研修を東京で行い、昭和48年鈴木二郎教授率いる脳神経外科に入室しました。脳血管内治療を専攻し、大学院重点化後の平成10年に東北大学教授になり、2016年(平成29年)に自己退職いたしました。2011年の東日本大震災で被災地に音楽を届ける活動に携わり、音楽の力を確信。学生や知人の社会人と共に歩み隊(ゴントモ)を結成し、避難所や仮設住宅を訪問、演奏、お話をしながらまいりました。更に各地(海外を含む)でその地域の音楽家と震災の話と演奏を届けるゴントモイベントを開催してきました。
(<https://akirasnd.wixsite/com-go-n-tomo>)

また、2015年5月24日には第5回1000人のチェロ・コンサート仙台での開催を準備、無事成功することができました。
(<https://1000cello.vc/5th.html>)

これらの活動を併せて様々な復興支援の活動をしてまいりました。最近では倉敷市真備町にての日本ア

ロマセラピー学会の支援活動にも注力しております。

これらの震災復興支援の活動に取り組む中で、音楽の力を本当に発揮するためには、音楽について極める必要があると自覚するようになりました。63歳からの音大生活を洗足学園音楽大学(神奈川県川崎市)で始めるようになったのです。

詳細は次のFacebookページをご覧ください。
(<https://www.facebook.com/63karanonday/>)

洗足音大入学と同時に学生クラブ(洗足学園共に歩み隊「セントモ」)を作り自然災害に学び、大学や自らが出演するコンサートにとどまらず、直接音楽を市民に届けるアウトリーチを目的に活動をしてまいりました。今回のメンバーはその活動の一部として参加している、すべて洗足学園音楽大学弦楽器専攻の学生です。

***演奏者** 洗足学園音楽大学生○内は2019年度の学年 *第一ヴァイオリン 松本志弦音(しおん)(2)
*第二ヴァイオリン 山下智史(さとし)(2) *ヴィオラ 山本里真(りま)(2) *チェロ 高橋明(4) *コントラバス 前山みなも(4)
***演奏曲目** G線上のアリア
見上げてごらん夜の星を 北国の春
翼をください イエスタデイ
ボヘミアンランパンディ
ふるさと(皆さんで歌いましょう)
曲目は当日変更の可能性があります。

秋友会(東北大学全学同窓会から)お知らせ

林 泉(昭41卒)

関東秋友会・関東地区の支部同窓会。会長・大槻幹雄(工学部)。

*年一回関東支部総会。今年に関東交流会・講演会

日時・令和元年6月30日(日)

13時30分〜17時20分

場所・東京駅サピアタワー5階

昨年の参加者数・約480名

講演会演者(予定)

① 吉田浩教授(経済学研究科)

少子・高齢社会の経済分析、公共部門の経済学「2045

年問題を考える」他

② 押谷仁教授(医学系研究科)「感染症、ウイルス研究」

「国境を超える新たな感染症」エボラや

MERSなどの脅威にどう対

応したらいいのか」



左から 山下、前山、高橋、松本、山本の皆さん。(セントモ)

親睦会・会場サピアタワー5階503

17時30分から19時まで

会費 6000円

昨年の参加者数約130名

年会費値上げと払込方法

昨年(平成30年)6月の関東東長陵同窓会・総会に於いて新年度(平成31年4月)から年会費が増額して金5000円に決定しましたので、ご協力をお願い致します。関東東長陵だより第47号に同封の〒振込票にて、お振込をお願いします。この度の新しい〒振込票(赤線枠)は、振込料が無料です。

東北大学長陵同窓会

関東連合会東京支部

〒247-0072

神奈川県鎌倉市岡本

二二二一・七〇四

TEL & FAX

〇四六七(四五)〇二八七

「関東東長陵だより」第47号

令和元年(2019年)

五月発行